

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570102814		
法人名	社会福祉法人 みその		
事業所名	みそのホーム・グループホーム		
所在地	秋田県秋田市寺内蛭根二丁目6番34号		
自己評価作成日	令和5年11月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和5年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家庭的な雰囲気の中で安心して、その人らしく生活出来るように寄り添います」という理念に基づき、一人ひとりが尊厳をもって暮らせるよう、支援します。

毎日の掃除が行き届いており、清潔感のある明るい共有空間は、利用者と一緒に作成した室内装飾により、さらに華やかな空間となっている。室内装飾のパーツ作りや食事に関する準備や片付け等「家庭的な雰囲気の中で」という理念の基に利用者のできることに着目しながら、テレビ体操や毎日の廊下歩行等で機能低下予防にも取り組んでいる。また、家族や関係機関と連携しながら11月末に看取りを経験しており、「その人らしく生活出来るよう寄り添います」という理念を実践していることがうかがえる。看取りの貴重な経験について職員から振り返りや反省点等を記してもらっており、今後会議で共有していくとのこと。「利用者に感謝されるのではなく、支援させてもらっていることに感謝」と話された管理者の言葉からも、日々の感謝の心を大切に利用者に向き合っている姿勢が感じられた。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な温かい雰囲気の中で安心して、その人らしく生活出来る様に寄り添います」を理念とし支援に繋げています。	職員で話し合って作り上げた「家庭的な温かい雰囲気の中で安心して、その人らしく生活出来る様に寄り添います」という理念に基づいた「安心」「喜び」「感謝」のキーワードを玄関近くに掲示している。理念を含めたホームの活動を本部研修で発表したとのこと。「利用者に感謝されるのではなく、支援させてもらっていることに感謝」という管理者の言葉からも、理念を実践につなげようとする思いが感じられた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中・高・大学生より、実習生が来ており交流している。	コロナ禍で行事やボランティアの受け入れ再開が難しい状況ではあるが、中学生の職場体験や看護学生の実習などで交流を深めている。また、利用者の理髪に町内の理髪店が来所してくれたり、友人が訪ねてきてくれ玄関先で話をしたりすることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	電話による相談や見学にいらした方のお話を聞き、支援の方法や手続きの方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催している。今年度は、5月・7月・9月に行い、11月を予定している。	今年度は対面で運営推進会議を実施し、町内会、地域包括支援センター、家族から参加してもらっている。年齢を重ねてきた参加者から要望があり、パンフレットを再度配り直す等の対応をしている。	会議資料には出席者の氏名や、質問・意見・要望から改善した内容等も記し、サービス向上に活かしていくことに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に包括支援センターの方に参加頂いて、意見を聞いている。	感染症や水害関係等の連絡は、秋田市からのメールで情報を得ている。地域包括支援センターの方は運営推進会議で出された質問に答えてくれており、情報交換できる関係が構築されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	建物が道路に面している為、玄関は施錠している。夜間はアルソック警備を設定。居室では、センサーマットや人感センサーを使用している。	「身体拘束廃止に関する理念」を作成している。ベッド柵で対応するのではなくセンサーマットを使用し、反応した場合にはすぐに支援ができるようにするとともに、日頃から職員間で話し合いがなされている。	身体拘束適正化検討委員会を継続するとともに、「身体拘束廃止に関する理念」を基にした研修や事例検討会等を検討し、実施内容を記録に残して振り返る体制づくりに期待します。
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度、研修会に参加できていない。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約書・重要事項説明書について説明している。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	ご家族様からの要望や苦情があった時は、カンファレンスノートや申し送り職員に周知するように伝え、支援に活かしている。	月1回、写真付きのお便りを家族に送付している。通院付き添いのために家族が来所したり、電話で話をしたりする中で要望を伺っている。家族から出された要望や意見は、カンファレンスノートに書き込み、職員間で共有している。	新しい職員の紹介や異動状況等をデイサービスセンター・小規模多機能型居宅介護と合同で発行している「みその便り」やホームの毎月のお便りに記載する等、家族に対応している職員の状況が分かるよう工夫することに期待します。
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	本部から事務局次長が来所し、職員の意見や質問に答えてくれる。	職員の特長が活かせ、希望休も取得しやすい職場環境にある。当番業務について、早番の仕事にしようかと意見のあった業務内容を、職員間で話し合っ変更したとのこと。職員から出された全体に係る意見は、管理者が出席しているみそのホーム責任者会議で共有し、会議の内容を職員にフィードバックしている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市認知症グループホーム連絡協議会ケアパートナーズに加盟しており、研修のお知らせを頂いているが、参加できていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問でご本人から要望を聞いている。また、利用開始してからも要望・困っている事がないか聞いている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問で、ご家族から要望を聞いている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできる事、やりたい事を把握し、洗濯たたみや花の水やりなどお願いしている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便り等で様子を伝え、ご家族様が来所された時はご本人様とゆっくりお話ができるよう支援している。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	携帯で自ら連絡を取っている方が1名、かかってくる方が1名いる。電話して欲しい…という方はホームの電話で家族に繋げている。	家族との電話のやり取りを支援したり、通院付き添いを家族にお願いしたりし、関係が途切れないよう努めている。隔週で帰省される方もいるとのこと。友人の面会がある利用者は、楽しい時間を過ごしている。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がお話しやすい様、席の配置を考えて行っている。また、手作業・制作など同じ事を行うことで関わり合いをもってもらえる事が出来ている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為退所された方が、その後の経緯や新しい施設が決まったことなど知らせてくれた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに担当の職員がおり、環境整備やその方の意向に添った支援に努めている。	子どもと触れ合う機会があった時に、元幼稚園の先生だった利用者は、優しい表情となり普段と目の輝きも違ったとのこと。利用者それぞれの生活歴や特技の把握も加味しながら、表情や仕草から意向を捉えるとともに、一人ひとりの思いや暮らしの希望が把握できるよう、話しやすい環境づくりを心がけている。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族からお話を聞きカンファレンスに活かしている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	モニタリング・カンファレンスを行いケアマネジャー・居室担当者を中心に計画書を作成している。	定期的かつ利用者の状況変化に応じて計画の見直しが行われている。ケアマネジャーが作成した計画案について、担当者からの意見も取り入れるとともに、本人・家族からの要望も盛り込んで、チームで取り組み、利用者の現状に即した計画書を作成している。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	個人記録・申し送り・カンファレンスノートで情報を共有している。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の床屋さんに定期的に来てもらっている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族対応でかかりつけ医に行っている。1名、訪問診療の方がいる。	基本的には家族が通院に付き添っている。家族からの要望で、訪問診療とした利用者の方がいたが、亡くなるまでの間、連携を図りながら看取り対応を行うことができたとのこと。かかりつけ薬局は足りない薬を持参してくれる時もあり、気軽に利用者の薬の相談ができる関係性にある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療を受けている方は、訪問看護を受けている為、利用者様のバイタル・食事量他・必要な情報を伝えアドバイスを頂いている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	腰椎圧迫骨折された方がおり総合病院の相談室の方と連絡を取りながら、ご家族様の心配事の軽減に努めた。(今は他施設に入所済)		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	息子様が東京にいる方が看取り対象となっている。個人病院から訪問診療への切り替え、訪問看護の導入をした。また、息子様や先生と話し合いをし職員が情報を共有している。	基本的に看取りは行っていないが、結果的に看取りを行った事例が最近あったとのこと。訪問看護を取り入れたことにより、看取りに対する気持ちの軽減が図れている。11月末に看取りを経験した後、職員から振り返りや反省点等を記してもらっており、今後会議で共有していく予定とのこと。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡時の連絡先をスタッフルームに貼ってある。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。 (他部署と共に)	他部署と合同で、年2回夜間想定避難訓練を実施している。市内で水害が起こった時には、ホーム自体に被害がなくても、職員の通勤に困難が生じたとのこと。備蓄は3日分を確保し、BCP作成は今後進めていくとのこと。利用者一人ひとりの緊急時連絡手順を作成し、その内容は1冊にファイリングされており、どこに連絡すればいいかが一目で分かるようになっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を尊重した言葉がけ、親しみの中にも丁寧な言葉遣いをするようにしている。	新しい職員には、先輩職員が支援現場でアドバイスしたり、接遇マナーのビデオを見てもらったりし、自身の言葉がけの仕方を振り返ってもらう機会を作っている。トイレ誘導の際には、プライバシーを損ねない声かけに努めている。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	担当職員が季節ごとにタンス内の入れ替えをしている。今年は家族様が居室に入られて、不足分がないかなど見て下さった。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食器洗いなど出来る事を一緒にに行ったりお願いしている。食後の食器を重ねてもらっている。	食事はみそのホーム全体で業者に委託しており栄養価がきちんと管理されている。ホームキッチンでおはぎを作ったり、お正月には1品増やしたり、誕生日ケーキを準備したりと工夫を凝らしている。利用者ができることは、お願いして行ってもらっている。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をチェックし、記録している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをして頂いている。仕上げの支援が必要な方もいる。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせ声掛けを行ったり、誘導している。チェック表を作成している。	共用トイレの他に車椅子トイレが準備されている。排尿や排便周期をチェック表で把握し、パットの使用量の確認も行っている。自尊心を損ねないようなトイレ誘導の声かけに努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝に、牛乳を提供している。また、水分を十分に摂って頂くようにしている。廊下歩行を、午前・午後行っている。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	受診日の前日に入って頂くなど、ある程度のパターンを一週間ごとに予定は立てているが、当日の利用者様の希望や状態で交替している。	基本的には午前中に3人が入浴できるよう予定を立て、1人が週2回ずつ入浴している。温かいお湯を好む利用者が多いため、希望に応じた湯加減となるよう調整している。ドライヤーも脱衣室でかける等、着脱から身支度を整えるところまで、マンツーマンで対応している。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に午睡時間を取っている。夜間眠れなかった方など、午前中に休まれている事もある。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や用法を理解する。受診後、薬が変わった時はその旨を職員が共有できるようカンファレンスノートで知らせる。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し・洗濯たたみ・食器拭き・食器洗い・歌の時間に皆さんをリードするなどその方の得意な事をやっています。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか出来なかった。7月に利用者様全員と職員で外食レクに行った。	コロナ禍に加えて水害の影響や夏の暑さのために、外出する機会を設けることが限られていたとのこと。それでも7月には皆で近くの南部屋敷にでかけ、自分の好きなものを選んでもらい、食事を楽しむことができています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している方はいない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は1日3回の整備時間を設けており、その以外にも気付いたらすぐ対応している。温度については、利用者様の声を聞き調整している。	毎日午前中にモップ掛けを行っているため、室内の床はきれいに磨かれ臭いもない。テーブルや手すりの消毒が行き届いており、清潔な環境にある。車通りの多い道路脇の建物だが、車の音はほとんど気にならない。清潔感のある明るい共有空間は、利用者と一緒に作成した室内装飾により、さらに華やかな空間となっていた。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファでテレビを観ている方がいる。皆さん自席でゆっくりされる事が多い。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの持ち込み、家族の写真、お花(造花)などをタンス上に飾られている。	基本的に持ち込み制限はなく、入居時に家族と相談しながら持参してもらっている。テレビを持参している方は、就寝前に居室で視聴し楽しんでいるとのこと。家族の写真を飾ったり、違和感ないよう物の配置に気を配ったりし、本人が居心地よく過ごせる環境作りに努めている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間のホールは車イスの方や歩行器の方が、どの方向からでも動きやすいように机を配置している。		